



新橋小学校

学校だより

令和5年4月7日

令和5年度 第1号

この春によせて

校長 西尾 琢郎

いよいよ新年度のスタートです！ この春は、新型コロナウイルス感染症の影響が社会全体を覆って以降、初めて迎える「上向きの春」であると感じています。この間、我慢を強いられたこと、失われたものは数えきれないほどありましたが、その一方で、実はたくさんの「新しい種」が世界中にまかれ、すでにそれらは様々な形で芽吹き始めてもいます。その意味で、この三年間は長い冬だったと改めて思う反面、これからの時代に向けた、雌伏のときだったのだとも感じるのです。

そうして迎えたこの春以降、どんなふうにも芽吹き、葉をつけ、花実を結ぶかが楽しみでならないことは、たくさんあります。本格稼働から2年を経た一人一台情報端末の活用もその一つです。「単なる道具」と言われることもある端末やネットワークですが、それが子どもたちの（そして私たちの！）学びや生活の在り方を根底から変えていくのは、まだまだこれからです。そもそも書を読み、学ぶことは、先人の功績を足場に、さらに高みに手を伸ばすという意味で「巨人の肩に乗る」ことに例えられてきました。これからの時代、その「巨人」の姿は、山々に等しいといわれた「だいだらぼっち」のようなかつてのイメージから、天球そのものを背に負い支えたとされる「アトラス」の大きさよろしく、文字通り世界そのものの大きさや広がりを持つようになっていきます。端末やネットは、その巨人の肩に乗って、これからの新しい時代を拓いていく子どもたちにとって、欠かせないパートナーとなっていくと考えています。ときに過ちや失敗を犯すこともあるでしょうが、そうしたことを糧にしながら、自分の可能性を広げていってほしいと願っています。どうかご家庭でも、お子さんの様子に注意と関心をお寄せいただき、その活用を見守っていただければ幸いです。

他方、このコロナの時代に蒔かれた種の中には、私たちがいいようのない不安に陥れるものがあることも確かです。それは未だ続く戦争であり、世界の人々の分断であり、私たちの国のこれからです。それらから目を背けることなく、新しい大切な芽を守り、育てていくことが私たち大人の責務であると思います。

この新橋の町には、誇るべき、守るべきあたたかな人の営みがあふれています。子どもたちにそれらを惜しみなく注ぎながら、子どもたちを通じて、それがこれからの時代へと広がっていくことを心から願っています。どうか本年度も、本校の教育活動へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。